

富山大学理学部後援会報



創刊号



ごあいさつ

後援会会長 ^{たけ はな まさ と}
竹 端 正 人

記録的な寒波でひとしお待ち遠しい今年の春もうすぐです。会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。この度、端無くも理学部後援会長の重任を仰せつかることとなりました竹端と申します。

さて、本会は高井先生はじめ大学関係各位の多大なご尽力のもと、学生の教育活動・就職活動の支援並びに保護者との連絡の緊密化を図る為に発足されました。昨年10月の新富山大学の誕生により本学の地域における教育拠点としての責務が益々高まる中、本会が少しでも学部学生の教育や教育環境の充実に貢献できるものと確信しております。

今後当理学部後援会がより充実発展するよう、不肖ではありますが微力を尽くさせて頂く所存であります。つきましては、会員皆様のご指導並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

保護者の皆さんへ

理学部長 平 井 美 朗



謹啓

早春の候、保護者各位におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、ご子弟には、日々の勉学に励み、将来に備えて研鑽を積んでおられますこと、ご同慶に存じます。

昨年1月に、保護者の皆様のご理解を得て、理学部在学生の教育や就職などの支援を行うために、「理学部後援会」が設立されました。ここに、改めて感謝申し上げるとともに、「理学部後援会」のその後の取り組みと理学部の近況をお知らせします。

本年11月の総会で、「理学部後援会」の会長として、化学科3年生の保護者の竹端さんが選出されました。

また、17年度の事業計画案が了承され、実施してまいりました。事業の主なものとして、学生実習関連（数学科においては演習関連など）などの充実を図りました。また、学生の勉学に対するモチベーションを高めるために、成績優秀者（各学科3名、計18名）の表彰を行いました。18年度は、それらに加え、学生の就職支援のための事業も行っていく予定です。

次に、理学部を取り巻く近況ですが、昨年10月に、富山大学と富山医科薬科大学、高岡短期大学が統合され、新富山大学として発足しました。現在、スケールメリットを活かした教育や研究組織の改善案が検討されているところです。また、本年4月に理学部と医学部、薬学部、工学部が協力して、新しい大学院が設置されます。理学部の教員は、全て、新大学院の理工学研究部に所属することになり、これまで以上に研究の活性化を図ります。また、学部の教育につきましては、異なった分野の教員が協力し、学科の垣根を越えて教育を進めることを検討しております。

最後になりますが、今年度の理学部卒業生は224名で、理工学研究科博士前期課程（理学系）の修了生は54名でした。社会に巣立つ姿を感慨をもって見守りながら、卒業生や修了生がいつでも訪ねたいと思うような「ふるさと」としての役割も本理学部が果たしていくべきであると、気持ちを新たにしております。

今後ともご支援のほど宜しくお願い致します。

敬白

平成17年度 理学部後援会予算

【収入の部】	会 費	9,190,000円
	1年生=328万円、2年生=274万円、3年生=183万円 4年生=123万円、その他賛助会員等=11万円	
	寄付金 平田卓郎様(理学部同窓会会長)	100,000円
	合 計	9,290,000円
【支出の部】	事業費	4,690,000円
	1.保護者への連絡・広報	
	(1) 保護者への通信、広報誌の発行、ホームページの作成	50万円
	(2) 保護者への成績送付(説明書添付)	10万円
	(3) 保護者懇談会等への助成(入学時)	20万円
	2.教育上必要な諸活動への助成	
	(1) 学生実習・実験等の充実(6学科*50万円)	300万円
	3.学生支援	
	(1) 優秀学生への顕彰制度支援(4学年*18人)	9万円
	(2) 学外講師による学生向け講演会	20万円
	(3) 学生の就職活動(卒業生による就職関係講演会等)	10万円
	4.その他	
	後援会の目的を達成するための必要経費	50万円
	事務費	400,000円
	会議費	100,000円
	人件費	400,000円
	小 計	5,590,000円
	次年度繰越金	3,700,000円
	合 計	9,290,000円

選出された役員

会 長	竹端 正人 (3年理事)
副会長	佐藤 卓 (1年理事)
副会長	山口 晴司 (化学科教授)
理 事	松永 豊 賛助会員
理 事	葛 晋治 賛助会員

後援会費収支中間報告

(2005年4月1日～2006年3月10日)

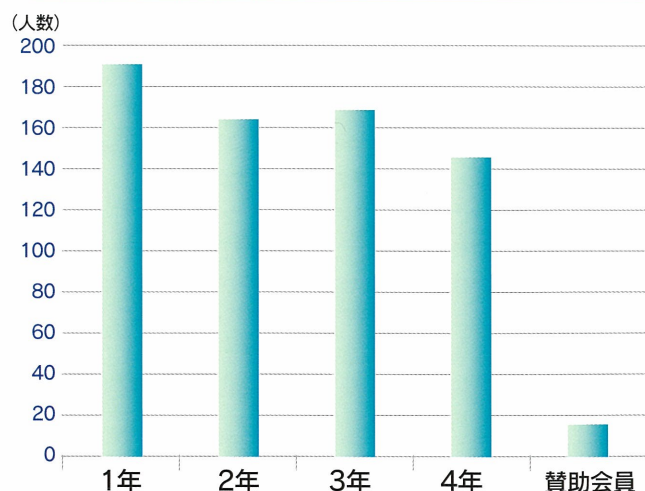
【収入の部】

費 目	金 額 (円)	摘 要
後援会費	11,145,000	学生661名、賛助会員18名
預金利息	56	
計	11,145,056	

【支出の部】

費 目	金 額 (円)	摘 要
事務用品費	58,194	角印、帳簿、ゴム印、金庫、印箱、タックシール、コピー用紙他
手数料	72,760	
会議費	23,275	総会(お茶、弁当)
人件費	208,681	事務員手当
通信費	114,916	成績送付、ハガキ564枚、総会案内、督促等
印刷費	44,625	角2封筒他
その他事業費	104,700	防犯ブザー(200個)
学生支援費	90,000	優秀顕彰制度支援(図書カード)
奨学寄付金	3,390,000	富山大学理学部へ
計	4,107,151	

納入状況



後援会費の援助により購入した物品一覧

数学科	大学の数学に慣れるための図書、学生用図書
物理学科	オシロスコープ、電圧・抵抗計測器、 ガンマ線検出器、プリアンプ
化学科	電子天秤、掲示板、定温乾燥機、パソコン
生物学科	顕微鏡
地球科学科	岩石試料、羽毛服、ウエザーコム計測セット 野外実習用品
生物圏環境学科	安全メガネ、防毒マスク、防毒吸収缶、 安全ビベッター、分析用天秤

その他：女子学生用防犯ブザー200個



研究紹介

微量元素からのアプローチ：

日本海海水循環を評価することで世界を知る

生物圏環境科学科 張研究室 八田真理子

日本海は4つの浅い海峡に囲まれ、この深層水循環は独自の循環系を形成し、海洋大循環のミニチュア版とされている。冬季シベリヤからの北西季節風による蒸発と冷却によって表層海水が沈み込み、非常に均一な性質の日本海固有水を形成している。この日本海固有水に含まれる溶存酸素は北太平洋に比べ1桁高く、これは表面水の頻繁な沈降によるものである。しかし日本海深層水の溶存酸素量は、この22年間（1977-1998）で約一割近く減少しており（Gamo, 1999）、これは冬期の表層海水の沈み込みにブレーキがかかっていることの現れであり、地球規模の温暖化による結果と考えられる。このような環境変動の影響を鋭敏に反映する日本海は、地球規模の海洋大循環のモデルケースといえる。

日本海の海水循環が停滞することは、私たちの生活に密接である沿岸環境や生態系に大きな影響を与える。そこで、どの海水がどこで沈み、どのくらいの量が循環しているのか、そして今後どうなっていくのかを明らかにすることは急務である。しかし、既存のトレーサーである溶存酸素だけでは、その疑問に答えることは難しい。そこで微量金属である希土類元素を用いて、現状把握と未来予測を試みた。その結果、希土類元素は海水の特徴を顕著に示し、日本海の海水循環を評価するために有力なトレーサーであると分かった。



2005年6月 パリでの国際会議で
Best Student Poster賞に選ばれる

CAMPAS SCHEDULE

キャンパススケジュール

◆スキー合宿研修 ◆北陸三県大学 学生交歓芸術祭 創立記念日 ◆夢大学 in TOYAMA(未定) ◆北陸地区 国立大学体育大会 ◆キャンパス祭(五福) ◆体育祭											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○授業開始 ○新入生オリエンテーション ○入学式			○第3年次編入学試験	○夏季休業開始	○補講・集中講義 ○大学院入学試験	○授業開始	○推薦入学等 特別選抜試験	○冬季休業開始	○入学試験(前期) ○卒業式(後期)	○入学試験(前期) ○卒業式(後期)	○卒業式

平成18年3月新規学校卒業者の進学・求職・就職の状況

平成18年2月末日現在

		① 卒業 予定者数	② ①のうち 進学者数	③ 進学率 ②/①(%)	④ ①のうち 求職者数	④のうち就職内定者数 ⑤計 県内 県外			内定率 ⑤/④(%)
合計	計	233	61	26.2	144	114	34	80	79.2
	男	158	50	31.7	92	72	16	56	78.3
	女	75	11	14.7	52	42	18	24	80.8

平成17年度理学部学生表彰

表彰の基準は「特に成績の優れた者」です。
各学科3名が選ばれています。

◆数学科

田崎 浩平
吉田 恵里子
杉石 喬広

◆化学科

西村 俊治
内田 雄輔
田嶋 孝寛

◆地球科学科

相原 史
坂田 綾
藤原 直子

◆物理学科

菅原 仁
土肥 義幸
梅本 直規

◆生物学科

西本 真奈美
淵本 麻里子
安藤 名央子

◆生物圏環境科学科

小濱 珠季
大溝 裕子
秋元 朗

理学部章について



平成17年10月1日に高岡短期大学、富山医科薬科大学、富山大学の3つの大学が統合されました。これに伴い新富山大学の学章が作られ、前富山大学の学章が廃止されることになりました。理学部内の教官から雪の結晶をシンボルとした前学章を惜しむ声が挙がり、それを理学部章にすることになりました。そこで前学章を元に作成されたのが図に示す理学部章です。

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL.076-445-6143 FAX.076-445-6142

編/集/後/記



遅くなりましたが、理学部後援会報の創刊号を作成しました。会報の内容については保護者の皆さんが知りたいと思われることを記事として取り入れ、充実したものとしていきたいと思っています。皆さんのご要望をお寄せください。

◆ホームページ

<http://www3.u-toyama.ac.jp/%7Esafs/>

◆メールアドレス

safs@sci.u-toyama.ac.jp